

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

第 6 報
千葉県農林水産部
平成30年7月27日

「ふさおとめ」の成熟期は8月10日頃からと予測 いずれの品種も収穫はやや早まる見込み 適切な水管理と適期収穫を行いましょ

[生育概況]

7月以降、気温は高く推移しており、全体的に生育の進みはやや早くなっています。4月20日植えの「ふさおとめ」、「ふさこがね」、「コシヒカリ」の出穂期は3～4日程度早くなっています。成熟期は早いところで「ふさおとめ」は8月10日頃から、「ふさこがね」は8月14日頃から、「コシヒカリ」は8月23日頃からと予測されます。

なお、「コシヒカリ」については、6月中旬の低温によって、出穂にバラつきが見られます。

表1 品種別の生育進捗と成熟期の予測

品種	植付時期	出穂期の 平年比較	成熟期予測			
			県北 (成田市)	九十九里 (茂原市)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)
ふさおとめ	4月20日	やや早	8月11日	8月10日	8月10日	8月10日
ふさこがね	4月20日	やや早	8月16日	8月14日	8月14日	8月14日
コシヒカリ	4月20日	やや早	8月26日	8月23日	8月23日	8月24日
	5月1日	やや早	9月3日	8月30日	8月31日	8月31日
	5月10日	やや早	9月4日頃～			
飼料用米(アキヒカリ)	5月15日	—	9月1日頃～			
飼料用米(夢あおば)	5月15日	—	9月15日頃～			

※成熟期予測は、水稻作柄安定対策調査ほの調査結果から、各品種の出穂期から成熟期の標準的な日数を加えて予測。飼料用米は栽培事例からの予測。

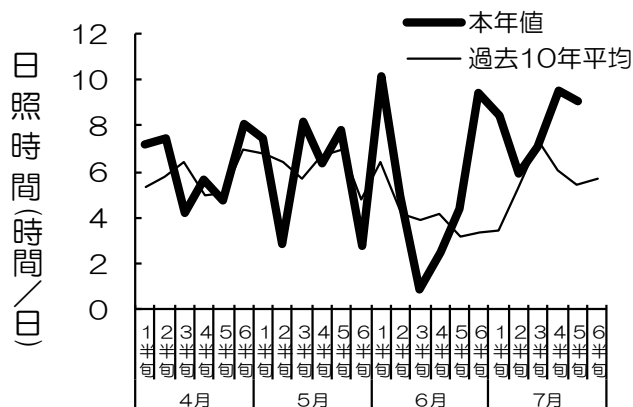
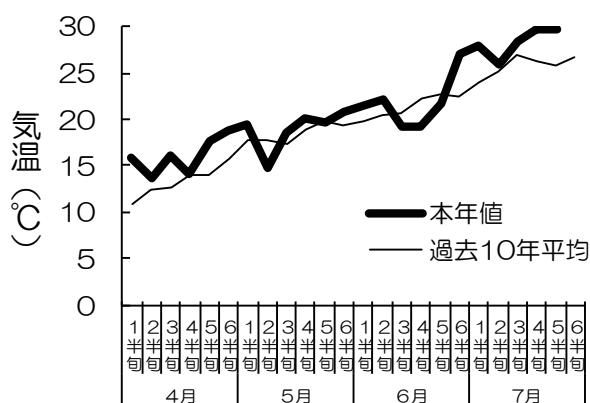


図1 日平均気温の推移 (アメダス、佐倉)

図2 日照時間の推移 (アメダス、佐倉)

[これからの管理のポイント]

■ 斑点米カメムシ類の防除

主食用米・飼料用米いずれも発生に応じた防除が必要です。

穂揃期頃に共同防除を実施した地域においても、その後、出穂7日後から14日後頃の乳熟期に斑点米カメムシ類が多く見られた場合は、農薬の収穫前使用日数、使用回数に注意し、追加防除を行いましょよう。

なお、防除に当たっては、周辺に養蜂場がある場合は粒剤の使用を検討する等、水田に飛翔した蜜蜂に影響がないよう農薬散布に留意しましょよう。

■ 乳白米の発生を防止する水管理

～出穂14日後までは湛水管理を行いましょよう～

出穂期から出穂14日後は、米の品質を決定する重要な時期です。登熟期の水不足は、乳白米等の白未熟粒の多発生による品質低下の原因になります。特に今年は7月以降、高温に推移しているため注意が必要です。湛水管理をしっかり行い、品質低下を未然に防ぎましょよう。

その後、出穂25日後までは間断かんがいにし、徐々に田面を固め、コンバイン収穫に備えましょよう。排水不良田では、出穂25日後に田面が露出するよう、出穂20日後頃を目途に落水を行いましょよう。

なお、早期落水は品質低下を招く原因となります。ほ場毎に適切な水管理を行いましょよう。

■ 適期収穫（良品質米の生産のため適期に収穫を）

収穫は、登熟状況を十分に観察し、帯緑色籾歩合15%の時に行いましょよう。特に「コシヒカリ」では出穂がバラついているため、帯緑色籾歩合の判定を確実にする必要があります。

（注：帯緑色籾数は生育中庸な10株から主稈と思われる茎の太い穂を選び、不稈籾を除いて数えます。図3参照）

なお、収穫期の目安は、出穂期（全穂数の40～50%が出穂した日）から「ふさおとめ」で33日前後、「ふさこがね」で37日前後、「コシヒカリ」で38日前後です（表1参照）。

早刈りでは青未熟粒、刈り遅れでは胴割米等が発生し、品質・食味を低下させます。

また、収穫した籾を3時間以上炎天下に放置しておくと、品質が低下します。収穫後は速やかに乾燥しましょよう。

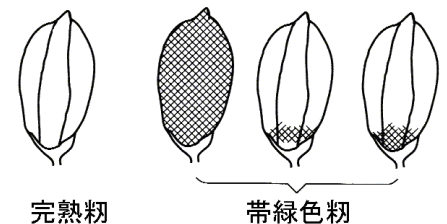


図3 帯緑色籾の見分け方
少しでも緑色の部分があれば、帯緑色籾として数えます。

■ 乾燥は丁寧に、仕上げ水分は適切に

高温による急速な乾燥や過乾燥等は胴割れ米を発生させ、品質・食味を低下させます。乾燥は平均毎時乾減率0.7～0.8%で行い、仕上げ水分は14.5～15.0%とします。

また、乾燥終了直後の、籾の温度が高い状態で籾すりを行うと、肌ずれ米や胴割米を生じるので、十分に放冷し、温度を下げてから行いましょよう。

■選別には 1.8mm 以上の網目

粒厚1.8mm以上の米は粗タンパク含有率が低く、おいしいお米です。粒が小さい米の混入は粗タンパク含有率を高める原因になるので、選別の網目は1.8mm以上にしましょう。また、大粒が特徴の「ふさのもち」については、1.9mm以上にしましょう。

■飼料用米について

○飼料用米の収穫適期

飼料用米の収穫適期は、「アキヒカリ」が出穂期から 35～40 日後、「夢あおば」が出穂期から 45 日後頃であり、帯緑色籾歩合は 15～20%を目安とします。

耐倒伏性に優れる「夢あおば」では、収穫適期以降、好天が続くと予想される場合は収穫を遅らせて立毛の状態乾燥（立毛乾燥）を進め、乾燥機の燃料コストの低減を図りましょう。

○飼料用米の乾燥・調製

飼料用米は主食用米と農産物検査規格が異なります。異物の混入などがなければふるい分けの必要もありません。また、食味及び外観品質を考慮する必要がないので、区分管理の場合は乾燥時の温度をやや高めに設定して乾燥効率を上げましょう。

■異品種混入の防止

異品種の混入を防止するため、品種切り替え時は、コンバイン、乾燥機、粳すり機等をていねいに清掃しましょう。

■生産履歴記帳

「売れる米づくり」に栽培管理の記録は不可欠です。集荷団体では、出荷に当たって「生産履歴」（栽培管理記録簿）の提出をお願いしています。もう一度記録簿を確認しておきましょう。基本技術を励行し、信頼されるおいしいちばのお米を生産しましょう。

■きめ細やかな水管理で節水を

現在、利根川水系のダム貯水量は平年に比べて少なくなっています。

出穂2週間後までは湛水管理が必要ですが、農業用水は地区内で計画的に利用し、さらに、かけ流しや漏水を防止し、大切に使いましょう。

過去に掲載した内容、水稻栽培の基本情報、病害虫の発生予察情報等については、千葉県ホームページ「生育情報」を御覧ください。

(<https://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>)

飼料用米等の適正出荷について

一括管理方式と区分管理方式

● 一括管理方式

主食用米と一括で栽培管理し、当初の契約数量を飼料用米として出荷する方式

● 区分管理方式

ほ場一枚を単位として作付ほ場を特定し、そのほ場から収穫された全量を飼料用米として出荷する方式。

区分管理方式で取り組む際の注意点

契約数量 = 出荷数量とはなりません！

① 特定したほ場で収穫された米穀は、**全て飼料用米として出荷**してください。

収穫量が契約数量よりも多い場合も、全量を飼料用米として出荷しなければなりません。また、ふるい下米が発生した場合は「新規需要米取組計画書」に従って、取り扱ってください。

② 万が一契約数量に満たなくても、**そのほ場で収穫された米穀のみ**を出荷してください。

収穫量が契約数量よりも少ない場合でも、特定したほ場から収穫された米穀のみを出荷してください。他のほ場で収穫された米穀を合わせて出荷しないでください。

③ 特定したほ場から発生したふるい下米を**主食用米として出荷**することはできません。

区分管理方式の場合、ふるい下米も用途限定米穀となります。ふるい下米を主食用として出荷した場合、食糧法遵守事項省令違反となります。